

平成31年度(令和元年度)

まちづくり推進部 増田地域局の方針書

組織名	まちづくり推進部 増田地域局
所属長名	阿部 隆雄

1. 組織の使命(ありたい姿)

地域のみなさんが知恵を持ちより、市民が主役で、誇りと愛着を持てる地域づくりを進めます。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・市民から親しまれ信頼される地域局として、市民に寄り添った対応や安心できるための様々な取り組みについて、職員の情報共有を図る必要がある。
- ・地域全ての地区交流センターが地域課題の解決に向けた取り組みを共有し、スムーズな管理運営に向けた支援をする必要がある。
- ・地域が「歴史と文化を活かした」輝くまちづくりのため、関係部局とのさらなる情報共有を図り、来街者のイメージ向上に努める必要がある。

3. 今年度の『スローガン』

歴史と文化が息づく、明るく元気な地域づくり

4. 今年度の方針

- ・市民が主体となった、持続可能な魅力ある地域づくり活動の推進
- ・市民に親しまれる施設のため、適切な維持管理
- ・市民が地域に愛着と誇りの持てるまちづくりの推進

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民が主体となった持続可能な魅力ある地域づくり活動の推進
	取組内容	①地区交流センターのスムーズな管理運営を支援し、魅力ある地域づくり活動を推進する ②各地区交流センターの独自性を活かしながら、地域課題の解決に向けた情報交換の場を設け、地域づくり活動に活かす
(2)	実現したい成果	市民に親しまれる施設のため、適切な維持管理
	取組内容	①市民に親しまれ、スムーズで分かりやすい職員対応と地域のみなさんが利用しやすい庁舎を目指す ②施設の利用者との意見交換により、合意形成を図りながら、必要とする施設の譲渡を進める
(3)	実現したい成果	市民が地域に愛着と誇りの持てるまちづくりの推進
	取組内容	①市民が地域の歴史や文化を誇りに思い、まちづくりに活かせるよう努めます ②地域の歴史に親しむため、地区交流センターの地域づくり活動に取り組めるよう情報発信に努めます

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 市民が主体となった持続可能な魅力ある地域づくり活動の推進
地区交流センターの事務担当会議を毎月開催し、各地区活動と施設管理等の事務も含めた情報共有を図り、4地区全体の意見交換会等を開催し、各地区センターの活動の推進に努めた。
- (2) 市民に親しまれる施設のため、適切な維持管理
特産品生産振興センターの一部施設を廃止し、解体工事に向けた準備及び吉野会館を改修し、譲渡に向けた事務手続きを進める。
各種会議等において庁舎1階のフリースペース利用について周知し、活用の推進。
1階行政窓口でエレベータ利用による2階への誘導と1階窓口の利用件数の調査(1階行政窓口の必要性検討)
- (3) 市民が地域に愛着と誇りの持てるまちづくりの推進
地域の歴史に親しむため、地域の中学生や増田地区交流センターのほか3地区交流センターから参加を募り、10月の「蔵の日」の開催時にスタッフとして参加により、地域の歴史文化を身近に感じていただくための取り組みを実施。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 各地区交流センターの事務担当者会議を継続し情報共有に努め、他地区の活動への参加を推進する。今後の取り組みに向けて、委員等からのアンケートを実施したい。
- (2) 庁舎1階の利用の推進を継続し、利用者数等状況の把握に努め、開放時間など活用について検討する。
利用者との意見交換などから施設の譲渡の検討及び各施設の適正な維持管理に向けた検討を進める。
- (3) まんが美術財団と観光協会、文化振興課、増田地域課との隔週での打合せを継続し、連携への取り組みを検討しながら地域住民への情報発信と歴史文化を活かした地区交流センターの取り組みを進める。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 市民が主体となった接続可能な魅力ある地域づくり活動の推進
 - ・地域づくり活動において4地区合同の意見交換を重ね、地元選出議員との意見交換をすることにより、各地域課題への取り組みや地区交流センター事業等への課題の共有が図られ、今後の地区交流センター事業のあり方に向けた検討を始めている。また、各地域間で事業への協力、参加が少しづつであるが進捗が図られてきている。
- (2) 市民に親しまれる施設のため、適切な維持管理
 - ・施設利用者との合意形成により、施設の譲渡を達成し、次年度の譲渡予定に向けた取り組みを進め、地域住民の譲渡に向けた意向を確認することができた。
 - ・庁舎1階の利用推進を図り、団体・高校など利用も増え、活動報告や情報提供の場としての利用も図られた。
- (3) 市民が地域に愛着と誇りの持てるまちづくりの推進
 - ・休止していた「蔵の日」を地域の多くの団体・中学校等の理解と協力をいただき、開催することにより地域の歴史に親しみ、再認識する機会とした。また、まんが美術館・観光協会等との綿密な打合せにより連携を図り、地域の活性化に向けた取り組みを始めている。これまでに以上に、地域活性化に繋げるため、地域住民が主体となった取り組みが望まれる。